

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 7 日現在

機関番号：14302

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009 ～ 2012

課題番号：21320087

研究課題名（和文） 小学校における総合的な文章記述力育成に関する基礎的研究

研究課題名（英文） A Basic Study on the Education of Writing in Primary Schools

研究代表者 森山 卓郎 (MORIYAMA TAKURO)

京都教育大学・教育学部・教授

研究者番号：80182278

研究成果の概要（和文）：

本研究では、文章記述能力を、「言語的基盤力」、「文脈的な構成力」、「主体的関与」という三つの要素として整理した。このモデルから、①句読点など表記に関する実態を調査し、課題を見出した。②学校文法はよく批判されるが、わかりやすく形態的系統性があるという点で一定の意味があることも検討した。③属性記述の文型など文型の焦点化の方法を検討した。④「例えば」など思考展開表現によって思考を導くことを提案した。

研究成果の概要（英文）：

We clarified modules of writing, namely, basic linguistic items, context-formation and writers' original ideas. According to this model, we pointed out that ①many pupils have insufficient capability to use commas and periods properly; ②although school grammar is apt to be criticized, its system is systematic and should not be abandoned; ③we proposed to focus on sentence constructions such as attribute description; ④we also proposed to deepen the ideas by using some concrete expressions such as “*tatoeba* :for example”.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2010 年度	2,000,000	600,000	2,600,000
2011 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
年度			
年度			
総計	6,600,000	1,980,000	8,580,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：日本語学

キーワード：国語教育 文法教育 言語事項 文章指導

1. 研究開始当初の背景

国語力の低下ということに関して、OECD の学力調査などでも、日本の子ども達の「読解力」の順位が 2000 年の調査から 2003 年、2006

年の調査にわたって、大きく低下した。とりわけ、文章記述力の不足が強く認識されていた (PISA2003、PISA2006)。これは全国学力学習状況調査で指摘されていることとも一

致しており、「活用 (B 問題)」において課題があるとされていた。

これについて、教育現場での取り組みはあるものの、言語運用能力の伸長とその背景となる言語的要素について、日本語学の観点から詳しく検討されることはほとんどなかった。しかし、日本語の研究は、言葉の学びである国語教育の改善にも直接関わることであり、研究成果を活かした提案をすることが待たれていた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、「言語」に着目しつつ、子ども達の記事記述力をいかに伸ばすかを考え、その言語的要素を整理することにある。

すなわち、句読点などの表記的問題、句型など文法的問題、文脈構成など文章論的問題、それに関連するコミュニケーションの問題、などを具体的に分析するとともに、教育現場に役立つ知見として提案することをめざしている。

3. 研究の方法

(1) 国語教育全体の中で「国語力」とは何かという本質的な問題を整理し、その上で、「書くこと」を位置付け、関連する能力を整理する。

(2) 小学校の協力を得て、一定量の作文資料のデータベース化を進め、指導上の留意点を分析する。

(3) 言語活動の充実ということを考えつつ、他教科との関連についての議論や教員養成など、具体的な手立てについての考察を進める。

(4) アメリカ、韓国、オーストラリアなどの先進的な教育について視察し資料を収集する。

(5) 関連する文構造の研究、語用論とコミュニケーションの研究を進める。

(6) 文構造、文章構造と語用論、文学的文章の分析、語彙論、文字表記論など基礎的な研究を進める。それを教育にどう取り入れるかについて研究する。

(7) 国語科だけでなく、他教科での文章指導のあり方を検討し、いかなる指導と支援が必要かを考察する。

(8) 教員養成も含め、総合的に教育現場の諸要請に応えることができるよう、コミュニケーション力という観点から考察する。

4. 研究成果

(1) 文章記述力の整理

「文章を書く」ということの要素として必要なことは三つに整理できる。それは、語彙や文法、表記法など言語事項と呼ばれてきたような「言語的な基盤」と「文章レベルでの文脈的な構成員力」、そして、核になる主体的な

「アイデア」に当たる「主体的関与」である。これは国語教育での「三つの力」として一般化でき、それぞれの力に対応した支援が必要である。これは具体的な国語教育の中身の整理としても有益であり、森山・達富『国語科教育の新常識』(明治図書)として刊行した。

(2) 社会的言語習得

さらに言語能力の育成とその言語研究的基盤について検討した。従来、言語の習得として、チョムスキー (N. Chomsky) が指摘するような種としての言語能力の習得ということが議論されてきた。しかし、OECD の学力調査プログラム (PISA) のキーコンピテンシー (key competencies) ということも含めて考えると、「社会的な言語習得」という見方も大切になってくる。社会で自己実現していくための基盤的な言語運用能力の育成ということが問題になるのである。これは、全国学力学習状況調査の調査結果などを見ても明かであるし、本研究で作成した子ども達の記事データベースなどを見ても明らかである。

この「社会的言語習得」を考えるには、①子どもの言語運用能力の伸長を、文字表記力や語彙力など、「国語の特質に関する事項」として、細かく見ていくこと、②思考力やコミュニケーション力を総体的に高めていくこと(「言語活動の充実」をめぐって、国語以外の教科と国語科を連携すること、幼小連携を考えることなどを含めて)が必要となる。

(3) 言語表現を手がかりにした指導

具体的には、子どもの記事の句読点の用法を分析すると、低学年で不適切な使用が多いだけでなく、高学年になっても不適切な使用をしている例が見られる。特に読点の指導については焦点化する必要があるということがわかった。

また、一次鑑賞文と二次鑑賞文を比較することで、逆接などの言語形式が思考の深化の指標として使えることも明らかになった。こうした具体的な言語表現に着目することは、効率的な指導に有益だと思われる。

こうしたことは思考展開表現として整理できる。すなわち、「理由を考えると」など、思考を深める為の手立てとなる具体的な表現(思考展開表現)があり、それを検討することが有益であることを示唆する。

幼小連携をみこした質的な調査によるとコミュニケーション指導の現場でも、「じゃあ」のように、相手の思いを受けてどうコミュニケーションを進めていくかということを考えることが有益であることが明らかになった。

(4) 基礎論としての文法指導とその展開

文法指導の改善ということについても検

討した。①日本語では、属性を描写する場合でも、「丸い」というだけでなく、「丸い形をしている」など、独自の構文がある。このように構文としての意味は「青い目をしている」のような様々な関連表現も含めて日本語の文型を構成している。こうした文型の特性を明かにしつつ、意識を高めることが有益だと思われる。②文法指導においては、現状のもので十分というわけではないが、一方で不毛な批判ばかりがなされるという傾向もある。しかし、形態的な整理という点や日本語活用という概念に注目すれば学校文法にはそれなりの有効性がある。③コミュニケーションにおいては、恩恵性や「察し」重視型の文化的特性など、コミュニケーションストラテジーについて考えることが有益である。④文法的に文学的修辭を分析することは、言葉の学びを豊かで深いものにしていくことにつながる。記述文法の知見を生かして、そうした表現の分析をしていくことは国語教育にも日本語教育にも有効である。

なお、準備中のものとして、『教師コミュニケーション力入門』明治図書（森山編・印刷中）がある。これは教育実習、新採教員などが教育現場でのコミュニケーションについて考えるために有益な実践的な書籍である。

また、平成24年5月開催の全国大学国語教育学会のシンポジウムでも研究成果に関することを発表する予定である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計8件）

① 石川誠 森山卓郎 江藤愛美 2012
「美術鑑賞の言語活動をめぐって」
『京都教育大学紀要』120 査読有 pp. 91-108

② 石川誠 ISHIKAWA M. 2012
‘Young people’s encounters with museum collections: Expanding the range of contexts for art appreciation’,
International Journal of Education through Art, 8(1), London: Intellect Limited, 10.1386/eta.8.1.73.
査読有 pp. 73-89

③ 森 篤嗣 2012
「使役における体系と現実の言語使用—日本語教育文法の視点から—」
『日本語文法』（日本語文法学会）12(1) 査読有 pp. 3-19

④ 森山卓郎 他 2012
「幼児のコミュニケーションと談話標識『じ

ゃあ』 『京都教育大学紀要』120 査読有 pp. 77-90

⑤ 森山卓郎 2011
「言語活動と思考展開表現」科学的『読み』の授業研究会編 『新しい教科書の新しい教材を生かして思考力・判断力・表現力を身につけさせる』学文社 査読無 pp. 158-165

⑥ 森山卓郎 2010
「国語教育と日本語学」『日本語学』2月号 査読無 pp. 52-58

〔学会発表〕（計6件）うち招待講演3件

① 森山卓郎 「社会的言語習得論」
日本語学会春季大会公開シンポジウム
日本語学会 2011.5.19 千葉大学
招待講演

② 森山卓郎 「言葉を楽しむ文法論」
台湾日本語文学会 2011.12.17
淡江大学、台北 招待講演

③ 森山卓郎 「文学の日本語」
日本語教育連絡会議 2011.8.19
Sofia University, Sofia, Bulgaria

④ Moriyama Takuro, Umehara Daisuke, Tominaga Hideo “The Attributive Use of Japanese Light-Verb Construction: A Constructionist Approach”
International conference of construction grammar (ICCG6) 2010.9.3 Charles University, Prague

⑤ Moriyama Takuro “Language specific strategies of communication”
International Conference of Pragmatics and Language Learning 2010.7.17 Kobe University,

⑥ 森山卓郎「日本語のニュアンスについて」
日本学国際研究会 2009年6月13日
上海外国語大学、上海 招待講演

〔図書〕（計6件）

① 森山卓郎『国語・日本語話題のネタ』ひつじ書房（2012）全148頁

② 森山卓郎ほか編著『国語授業の新常識 読むこと 高学年』（2011）全144頁

③ 樺山敏郎・森山卓郎ほか編著『国語授業の新常識 読むこと 中学年』（2011）全144頁

- ④ 達富洋二・森山卓郎ほか編著『国語授業の新常識 読むこと 低学年』（2011）
全144頁
- ⑤ 森山卓郎『信頼される正しい言葉遣い』（産業能率大学2011）全144頁
- ⑥ 森山卓郎・達富洋二『国語教育の新常識』（明治図書2010）全150頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

森山 卓郎 (MORIYAMA Takuro)
京都教育大学・教育学部・教授
研究者番号：80182278

(2) 研究分担者

井上 えり子 (INOUE Eriko)
京都教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：90314567

渡辺 伸樹 (WATANABE Nobuki)
京都教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：10362584

水山 光春 (MIZUYAMA Mitsuharu)
京都教育大学・教育学部・教授
研究者番号：80303923

村上 忠幸 (MURAKAMI Tadayuki)
京都教育大学・教育学部・教授
研究者番号：20314297

石川 誠 (ISHIKAWA Makoto)
京都教育大学・教育学部・教授
研究者番号：80284818

垣内 幸夫 (KAKIUCHI Yukio)
京都教育大学・教育学部・教授
研究者番号：50117420

加藤 久雄 (KATO Hisao)
奈良教育大学・教育学部・教授
研究者番号：40135827

松川 利広 (MATSUKAWA Toshihiro)
京都教育大学・教育学部・教授
研究者番号：10190430

菅井 三実 (SUGAI Kazumi)
兵庫教育大学・教育学研究科・教授
研究者番号：10252206

森山 潤 (MORIYAMA Jun)

兵庫教育大学・教育学研究科・教授
研究者番号：40303482

達富 洋二 (Tatsutomi Yoji)
仏教大学・教育学部・准教授
研究者番号：40367983

森 篤嗣 (MORI Atsushi)
国立国語研究所・研究員
研究者番号：30407209

Andrew Obermeier
京都教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：40379061